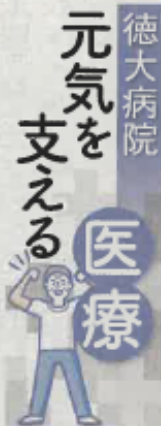


健康



石澤啓介
臨床研究推進部
部長・教授

私たちが病院で受けている医療は、これまで積み重ねられてきた多くの研究成果によって支えられています。今この瞬間も、治療法が十分に確立されていない病気に立ち

向かうため、世界中で新しい薬や治療法の開発が進められています。それらを実際の医療として患者さんに届けるためには、有効性や安全性を確認する治験と臨床研究が欠かせません。近年、医療を開発する現場は、デジタル技術や人工知能(AI)の進歩で大きな変革の時代を迎えています。特に注目されているのが、医療現場で日々蓄積される診療データの活用です。個人情報を適切に



診療データ解析し活用

保護した上で、診察記録や検査結果、薬剤情報などさまざまなデータを解析し、病気の原因解明や治療効果の検証、治療法の開発につなげることが可能です。

各地の大学病院では診療データを研究に活用するための環境整備が進んでいます。徳島大学病院も研究者が安全かつ効率的に活用できる環境を整備しており、新たな医療の創出と質の向上に取り組んでいます。

AIによる診療データの解析も進んでいます。人間の目では捉えにくい特徴や傾向を見だし、診断や治療の精度向上、創薬研究への応用が期待されます。患者さん一人一人の病状や体質に応じた個別化医療の実現にも貢献すると考えられています。

医療の進化をさらに推進するため、徳大病院は4月に臨床研究推進部を設置しました。新しい医療を社会へ届けるためには研究計画の立案だけでなく、倫理審査や法令対応、データ・品質管理など多くの専門的な支援が必要です。医師や薬剤師、看護師、臨床検査技師など多職種が連携して総合的に支援しています。また、臨床研究コーディネーターが治験や臨床研究に参加される患者さんに寄り添いながら、安心して研究に協力していただけるよう努めています。

徳大病院では再生医療などの技術を活用した治療法の開発にも取り組んでいます。現在、1型糖尿病の患者さんの脂肪組織から作製したインスリン産生細胞を移植する治験を実施しています。4月に世界で初めて患者さんへ移植され、現在も安全性と有効性の評価を慎重に進めています。治験と臨床研究は、患者さんや地域のみならずの理解と協力があって初めて実現します。診療で得られた知見を研究へとつなぎ、その成果を患者さんへ還元する。この好循環を続けることが未来の医療を支える原動力となります。

治験・臨床研究の支援促進